

テーマ	大規模災害に対し教育機関が意識すべきこと ～何が起こり、どう備えるか～		
講習内容	南海トラフ地震に代表される巨大地震や大津波、年々激しさを増す豪雨被害や土砂災害など、学校現場は常に危険に晒されています。大規模災害が発生したときに子供たちの命を守り、地域の防災拠点としての役割が期待される教育機関ですが、学校そのものも被災し、教師も被災者になります。被害を最小化し、教育機関としての事業継続・再開に向けてどのような準備と心構えが必要なのか、何が起こるのかを想定しながら共に考えます。		
科目区分	選択領域	対 象	全教諭、養護教諭、栄養教諭
担 当	規矩 大義(本学 理工学部 教授)	キャンパス	金沢八景キャンパス
講習期間	2019年8月8日(木)	講習時間	6時間
授業形態	対面授業	試験方法	筆記試験

時間割	講時	時間	内容
	1 講時	9:00 10:30	何が起こるかを想像できるかが運命の分かれ目 過去の大規模災害の例を取り上げながら、学校現場でどのような被害が生じるのかを想像することの重要性を理解する。
	2 講時	10:45 12:15	守るべきものとその優先度は 教育機関に勤務するものにとって、「子供たちの命」の次に守るべきものと、その優先度をどのように考えるか、自身の行動に照らして意識しておくことの重要性を理解する。
	3 講時	13:15 14:45	防災計画・防災マニュアルの限界 常時に想定される行動は非常時には通用しない。国や地方公共団体による地震被害想定やハザードマップ、防災マニュアルの本質的課題と限界を理解する。
	4 講時	15:00 16:30	教育機関における事業継続と早期再開とは 経済原則に基づくBCPは机上の空論。想定を超える大規模災害において、事業継続計画策定の意味を問い直し、周辺地域の復旧と調和のとれたBCPの重要性を理解する。
	伝達事項	16:30 16:40	・今後の修了書送付までの流れ等をご説明します。 ・事後アンケート →ご提出いただいた方から講習終了となります
備考	※4講時内に筆記試験を実施します。		